

課題を解決する

Project 3

大切なものを紹介しよう

単語や表現を見せながら、あなたにとって大切なものを、Show & Tellで紹介しよう。

1 Think これは誰が発表の準備作りのために作ったアイデアマップです。発表の発表を聞いて、実際に誰がShow & Tellで話したことにチェックしよう。

2 Think あなたが大切にしているものを1つ選んで、あなた自身のアイデアマップを作ろう。

★ ()や□に入力するときの参考にしよう。
(種類、色、形、大きさ、性格、性別、名前、色相、好きなこと、できること、手に入れた経緯、感じたこと)

[聞き]

3 Think 大切なものについて、友達と英語でインタビューしよう。

英語の大切なもの	どんなものか・どうして大切なのか

3 Idea Box

インタビュー (180-181)

A: What is important to you?
B: My camera.

A: Why?
B: Because my grandfather gave it to me.

A: Nice. When did you get it?
B: Two years ago.

質問 何を大切にしていますか。何回～ですか。何回～ですか。どのくらいの間隔で～ですか。

回答・表現 cute かわい cool かっこいい beautiful 美しい nice すてき old 古い new 新しい

4 Write 大切なものを紹介する Show & Tellの原稿を書こう。

Opening

●あいさつ
●紹介するもの

Body

●どんなものか
●どうして大切なのか

Closing

●まとめ
●あいさつ

Hello, everyone.
This is _____.

Thank you.

5 Think あなたにとって大切なものをShow & Tellで紹介しよう。

① 発表の発表を聞いて、わかったことをメモしよう。わからなかったことは質問してみよう。

学年に3回、学んだことの集大成としての表現活動を設定。複数の技能を統合的に駆使して、課題に取り組みます。

3年間で バランスのとれた テーマ設定

自分 自分以外の人 ものや場所など

1年

Project 1	自己紹介をしよう
Project 2	友達にインタビューをしよう
Project 3	大切なものを紹介しよう

2年

Project 1	有名人を紹介をしよう
Project 2	自分の夢を紹介しよう
Project 3	自分の町を紹介しよう

3年

Project 1	先生にインタビューをしよう
Project 2	日本文化を紹介しよう
Project 3	ディスカッションをしよう



今井 裕之
(関西大学)

1. プロジェクトで課題解決の「プロセス」を学ぶ

アクティブ・ラーニングでは、能動的に読み、書き、仲間と討論やロールプレイすることで、思考・判断・表現を重ね、知識・技能・情意すべての面で成長する「学習のプロセス」が重要である。NEW CROWN のプロジェクトは、アクティブ・ラーニング、協働学習、課題解決学習の原理を踏まえた学習プロセスを明示することで、教師と生徒が活動の見通しを共有できるよう配慮している。

2. プロジェクト学習のプロセス

Think - Pair - Share (個人で考え、他者と交流し、共有・発表する) 活動は、アクティブ・ラーニングの活動の典型例だが、NEW CROWN のプロジェクトも、

- ① 課題について考える
- ② 仲間と考えを共有し改善する
- ③ 考えを練り直し、共有(発表)する

というプロセスを採用している。ただし、Thinkの前に、そのきっかけになる活動(他者のスピーチを聞いてメモを取るなど)を加え、より自然な言語使用に近づけるとともに、学習用のモデルとともに、思考の素材(Food for Thought)も提供しているので、Feed - Think - Pair - Shareの段階的構成となっている。また、一連の活動の途中・最後に学習のプロセスの「振り返り」(review, recapitulation, reflection)を加え、活動に没頭する間には気づかなかったことを意識化することもアクティブ・ラーニングのような活動的・経験的学習には重要である。

3. アクティブ・ラーニングの「主体性」

学習者が自ら(みずから)積極的に課題に取り組むことを教師が期待してしまえば、学習活動は機能しない。学習者たちが自ら(おのずから)参加する思考・判断・表現の場と時間を創るのが教師の役割・醍醐味だと思う。そのような場と時間を創るため、プロジェクトは、テーマ・トピック、発表スタイル、既習文法や語彙知識等多様な要素を踏まえた段階的な課題解決プロセスを提示した。また3年間の成長を見通せるよう9回のプロジェクトの構成やバランスも考慮しているので、先生がたの評価をぜひ請いたい。